

事例 10 : 2004年福井豪雨 : 「ダイニングコンビニ」は地域のライフライン

● 株式会社大津屋 ～ 災害時こそ、美味しさと笑顔を届けたい ～

■ 会社概要

企業名 : 株式会社大津屋	資本金 : 5,000万円
所在地 : 福井県福井市	業種 : その他の生活関連サービス業
従業員数 : 350名	保険 : 水害、火災、雪害、PL法

◇防災・減災について考えるようになったきっかけ

当社では、お惣菜屋とコンビニがドッキングした新たなコンビニの形「ダイニングコンビニ」を独自ブランドのコンビニエンスストア（オレンジBOX）として展開しているが、2004年の福井豪雨では本社前で運営しているコンビニエンスストアの1階膝上まで浸水した。2日後に営業再開したが、自宅が被災し食事を用意出来ない地域住民の方々が多数来店され、当社コンビニエンスストアが地域住民の皆様にとって欠かすことの出来ないライフラインとなっていることを痛感し、災害時の営業継続の重要性と商品提供の継続の必要性を痛感した。その後、2018年の福井豪雪の際に、その思いが一層強くなった。

◇どのような被害があったか

2004年の福井豪雨で本社前コンビニエンスストアの1階膝上まで浸水した際、商品を陳列している冷蔵庫など金額にして約5,000万円の被害が生じたが、加入していた水害保険でまかなうことが出来た。



写真説明 : コンビニエンスストア（オレンジBOX）店舗外観

◇どのような事前の備えをしているのか

当社のコンビニエンスストアは独自ブランドで展開しており、おにぎりや惣菜を店内調理して販売することで大手コンビニエンスストアと差別化を図っている。そのため災害時においても調理スタッフの確保が必要であることから、緊急連絡網の整備を充実させている。また、サーバーは2階に設置、外部のクラウドサービスに加入するなどし、地域のライフラインとしての使命を果たすべく備えを行っている。

◇他事業者と連携した取り組みについて

当社は、当社コンビニエンスストアへの配送を行う運送事業会社と、当社で働くパート従業員が所属しているグループ会社と連携し、2021年6月に国の連携事業継続力強化計画の認定を取得している。運送事業会社には、当社物流拠点の隣に事業所を移転してもらい、災害時においても速やかに配送できるよう取り組んでいる。